

# 釧路体協だより

第78号

発行 釧路市体育協会  
令和2年3月31日

令和元年度(第52回)

釧路市スポーツ賞

千葉賢市氏



永年にわたって卓球競技の普及振興に貢献された釧路卓球協会会長 千葉賢市氏(73歳)が、本年度の釧路市スポーツ賞を受賞されました。

千葉氏は昭和51年に釧路卓球協会理事となり、以来43年以上にわたり協会の運営に積極的に取り組まれ、平成13年より理事長、平成27年より会長を歴任、卓球競技の普及振興に尽力されるとともに、豊かな経験と適切な判断力で協会の組織拡大、発展に努力を重ねております。平成31年からは北海道卓球連盟副会長を務めるなど、道内の卓球競技の普及振興のための取組にも尽力されております。

また、40年にわたり市内中学校や高校で外部コーチを歴任し、この間には幾多の選手を全国大会へ導くなど、学生の卓球の指導に力を注がれました。現在も市内の中高生に卓球を通じて青少年の健全育成に力を注いでおります。

生涯現役として今なおコートに立ち続け、釧路市の卓球界の発展や競技力向上に奔走し、卓球競技の振興に多大なる貢献をされております。

スポーツ賞授与式は令和元年10月19日(土)、湿原の風アリーナ釧路でくしろリーグ団体選手権(卓球)の開会前に協会関係者や選手等が見守るなか行われました。岡部義孝教育長は「この受賞を一つの通過点とされながら、釧路市のスポーツ推進に更なるご尽力をいただきたい」と挨拶し、受賞者の千葉氏は「今後も協会の発展、選手の育成、スポーツの推進を賞に恥じないよう努力していきたい」と挨拶しました。

## 栗林定徳氏 体育協会の先達者逝く

ご功績を偲び心からご冥福をお祈り申し上げます



栗林定徳氏は平成4年から釧路スケート連盟会長として27年間、組織をけん引し、氷都くしろの黄金期を支えるオリンピック選手をはじめ数多くの優秀な選手の輩出に貢献されてきました。

近年は釧路市民のスピードスケート競技の拠点施設として世界で活躍する選手を輩出してきた柳町スピードスケート場を自然条件に左右されず、選手の育成強化やスケート愛好者の裾野拡大に大きな役割

を果たすことが期待できる施設として、屋内化への早期実現に向けて熱い思いをもって取り組んでおられました。

釧路市体育協会副会長を平成7年から24年間務め、歴代会長を支えるとともに、釧路市のスポーツ振興、発展に大きな足跡を残されました。

また、釧路商工会議所会頭を務めるなど経済・産業をはじめ文化・スポーツ分野などあらゆる分野で偉大な業績を残されました。

(令和元年12月26日行年82歳でご逝去)

釧路市長・釧路市教育委員会教育長・釧路市議会議長へ(12月12日)

## 社会体育施設整備要請活動

釧路市体育協会は、新年度予算編成に向け、社会体育施設の整備に関する要望について、蝦名市長、岡部教育長、松永議長に令和2年度要請書を手渡しました。

要請書は「柳町スピードスケート場の屋内化」「スポーツ施設の計画的な補修・改修及び備品整備」についてで、柳町スピードスケート場の屋内化では自然条件に左右されず、競技環境の飛躍的向上が期待できる屋内化への早期実現について、スポーツ施設では経年劣化が数多く見

られる施設の補修・改修とルール改正や大規模大会に対応できる備品整備について計画的に進めるよう要請しました。

足立会長は「屋内化することにより、夏場には子どもたちの活動等で色々な活用が図れる」と柳町スピードスケート場の屋内化の建設実現を訴えました。



## 令和元年度釧路管内体育協会連絡協議会 資質向上研修会

釧路管内8市町村の体育協会・スポーツ協会  
で組織する釧路管内体育協会連絡協議会は、釧路町スポーツ協会の担当で、11月9日、10日に釧路町コミュニティセンターで「資質向上研修会」を開催しました。

管内協会における競技力の向上、地域スポーツの振興と連携強化を目的とするこの研修会は役員ら28名が参加しました。

1日目は「オリンピックの経験をどう生かすか～釧路町スポーツコーディネーターの役割～」との演題で、ソチ、平昌オリンピックにアイスホッケー選手として出場した釧路町スポーツコーディネーター水上愛奈氏が、2度の大きな怪我を克服しての競技人生、海外留学、オリンピック出場経験を活かしたスポーツコ



ーディネーターとしての活動と役割について講演しました。

2日目は「東京2020パラリンピック種目 ボッチャ」を釧路市社会福祉協議会の藤倉裕康氏を講師に迎え、3対3のチーム戦で行いました。ボッチャはヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、赤・青6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、目標球と呼ばれる白いボールにいかに近づけるかを競いました。両日とも実り多い研修となりました。



## 全国中学校アイスホッケー大会 景雲中学校優勝 14年ぶり3回目

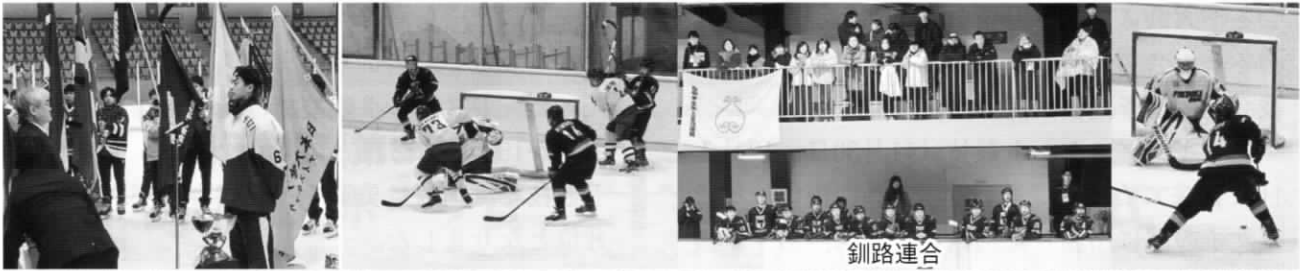
第40回全国中学校アイスホッケー大会が1月16日から19日まで苫小牧市で開催され、北海道大会で優勝した景雲中学校と準優勝の鳥取中学校が出場しました。景雲中学校は決勝で鳥取中学校に勝利した東京都選抜と対戦し、3対1で逆転勝利を収め、全中制覇を成し遂げました。鳥取中学校も3位決定戦で埼玉県選抜に勝利しました。



釧路新聞社提供

# 第92回日本学生氷上競技選手権大会

アイスホッケー 12/25～29 スピード・フィギュア 1/5～7



釧路連合



釧路公立大学

第92回日本学生氷上競技選手権大会が大学101校、選手1,316人が参加し、アイスホッケー競技は12月24日に開会式を行い、25日から29日まで、スピード・フィギュア競技は1月4日に開会式を行い、5日から7日まで開催されました。各競技会場には17,335人が訪れ、熱い声援を送っていました。

アイスホッケー競技では釧路からセカンドディビジョンに釧路連合（教育大学釧路校・釧路公立大学）が女子オープンには釧路公立大学が出場しました。ファーストディビジョンでは釧路出身者が主将を務める、東洋大学、中央大学、法政大学、明治大学の4強が激突し、東洋大学が優勝しました。

スピード競技では武修館高校出身の田中笑太選手（法政大）が男子5000mで3位、男子10000mではリンクレコードを15年ぶりに塗り替え優勝しました。また、フィギュア競技では武修館高校出身の海津あすか選手（東洋大）が華麗な演技を披露しました。

総合優勝は男子が日本大学、女子が明治大学、高崎健康福祉大学、山梨学院大学の3校でした。



## 北海道高校スケート・アイスホッケー競技大会

第72回北海道高等学校スケート競技・アイスホッケー競技選手権大会兼第71回北海道体育大会冬季大会スケート競技会兼第75回国民体育大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会北海道予選会が開催されました。

フィギュアスケート競技は11月30日・12月1日に春採アイスアリーナで開かれ、国体予選成年女子の部に出場した釧路出身の海津あすか選手（東洋大・武修館高出身）が1位、中野沙優香選手（関西学院大・湖陵高出身）が3位となりました。

アイスホッケー競技は12月14日から16日に日本製紙・春採アイスアリーナで開かれ、決勝で武修館高校は全校応援を背に駒大苫小牧高校と対戦し、1対2で惜敗しました。

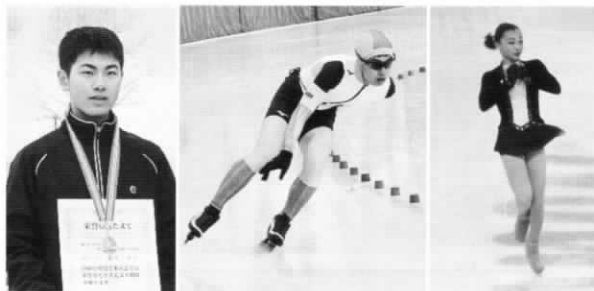
スピードスケート競技は12月19日から22日に柳町スピードスケート場で開かれ、2000mリレー、チームパシュートに釧路勢で唯一江南高校女子が出場し健闘しました。



## 北海道中学校スケート大会

第50回北海道中学校スケート大会が1月11日から13日まで、スピードスケート競技は柳町スピードスケート場で、フィギュアスケート競技は日本製紙アイスアリーナで開催されました。

スピードスケート競技では藤中秀斗選手（北中）が1500mで2位となり、フィギュアスケート競技では山崎舞美選手（附属中）がAクラス8位となりました。



## スポーツ少年団担当事務局の変更

釧路市スポーツ少年団を担当する事務局が令和2年4月1日に釧路市教育委員会スポーツ課から「釧路市スポーツ振興財団」に移ります。

住所、電話番号は釧路市スポーツ協会と同じです。

## ～お知らせ～

釧路市体育協会は令和2年4月1日から、「**釧路市スポーツ協会**」へ名称を変更し、事務所が「釧路市柳町スピードスケート場2階」に移ります。

- ・住所：釧路市柳町1番1号 釧路市柳町スピードスケート場
- ・TEL 0154-31-1230 FAX 0154-31-0869（釧路市スポーツ振興財団）
- ・E-mail [info@kushiro-taikyo.jp](mailto:info@kushiro-taikyo.jp)（変更ありません）

これからも、市民スポーツの振興とスポーツ精神の高揚を図ってまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 編集後記

「釧体協だより」としては最後の号となる。スポーツ協会への名称変更とともに次号から名称を変え発刊します。▲昨年開催されたラグビーワールドカップは番狂わせが少ない競技と言われ、これまでは伝統国が8強をほぼ独占していた。日本は1次リーグ4連勝で1位通過、伝統国の一角を崩し8強をつかみ決勝トーナメントへ。優勝した南アフリカに敗退したが、テレビ観戦では自然と力が入った。日本中が熱狂と興奮に包まれ、そしてラグビーの楽しさを教えてくれた44日間でした。▲冬の競技であるスケート、アイスホッケーではインカレ、中学・高校の全道大会が開催された。何れも強豪校、強豪選手が集う大会で大変な盛り上がりを見せていた。▲国内そして道内で感染拡大している新型コロナウイルスの締として楽しみにしている全日本少年アイスホッケー大会（中学生）が中止となった。全国的にも中止、無観客試合、そして外出自粛などでテレビの前にいる時間が長くなっている。